

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	2672800071
法人名	社会福祉法人 和光会
事業所名	グループホーム 梅林園
所在地	〒610-0113 京都府城陽市中芦原55番地 (電話) 0774-52-4500

評価機関名	社団法人京都ボランティア協会		
所在地	京都市下京区西木屋町通上ノ口上ル海湊町83-1 ひと・まち交流館 京都1階		
訪問調査日	平成22年4月10日	評価確定日	平成22年5月13日

## 【情報提供票より】(平成22年3月10日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 8 月 20 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	7 人
職員数	8 人	常勤 5 人, 非常勤 3 人, 常勤換算	6.6 人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋耐震造り
	3 階建ての 1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有( )	○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	○有(50万円) 無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	700 円	おやつ	100 円
	または 1日あたり 円			

### (4) 利用者の概要(3月1日現在)

利用者人数	7 名	男性	0 名	女性	7 名
要介護1	2 名	要介護2	0 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低	72 歳	最高	91 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	京都大橋総合病院
---------	----------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

城陽市の梅林で有名な青谷地区で病院、リハビリ病院、療養所、福祉センター、養護学校等がある福祉ゾーンに、特養、デイサービス等と併設されているグループホームである。山を切り開いた広い苑内には梅、桜や草花、鯉や金魚の泳いでいる池等、自然に恵まれ、季節ごとに楽しめることは、利用者にとって大きな良い影響となっている。こうした自然環境を利用した特養の行事が毎月開催され、ホームの利用者も参加し、地域住民と交流している。家族の来訪も多く、行事参加も含めて家族同士の交流が進んでいる。認知症介護経験が長い管理者は明るい人柄で、利用者も職員もよくみており、自然体で運営している。評価受審を生かしたサービスの質の向上に取組、理念の策定や看取り指針の策定と実施が進んでいる。グループホームの入居を理解できない利用者には、アドバイスをいただき、ホーム内では仕事をしてもらうという設定で受け入れ、市の広報誌のファイルを頼み、給料明細を渡すなど、個別ケアに取り組んでいる。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>昨年の評価受審により、グループホーム独自の理念の策定、看取り指針の策定と実施、意見箱の配置等が改善されている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>受審にあたり、職員会議で評価の意義を話しあい、自己評価票を配布し、意見を聞いている。職員は難しいとしながらも、「地域にねぎした居住空間とは何か」について、認識を深めている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>家族、民生児童委員、老人クラブ会長、市高齢介護課職員、地域包括支援センター職員等がメンバーとなり、隔月に開催され、記録が残されている。毎回全家族に案内し、数家族が参加している。災害対策やインフルエンザ対策、苑内の新築工事の件等、率直な意見交換が行われている。地域の行事や紅葉のきれいなスポット、ボランティア情報など、提案があり、取り入れている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族は隔月に開催される運営推進会議において、災害対策や感染症対策などについてフランクに意見を出しており、対応している。誕生会には家族を招待しており、一族10人くらい来訪される家族もあり、家族も演しものを披露されることもある。他の利用者の家族も誕生会に参加し、カラオケを披露したり、家族同士の交流が進んでいる。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町中から離れた地域のため、花見、演芸会、夏祭り、文化祭、クリスマス会等の特養の行事の際に送迎車を出し、地域住民が参加し、グループホームの利用者もその際に交流している。書道、音楽、生け花等は地域のボランティアが来てくれる。文化パルクのサークルやコンサートに参加している。近くの幼稚園の生活発表会、祖父母参観、運動会に参加している。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、ホーム独自の理念をつくりあげている	法人の理念は「仁愛、誠実、研鑽」であり、ホールに掲示するとともにパンフレットや重要事項説明書等に明記し、利用者や家族への理解を図っている。グループホーム独自の理念を「暮らしのパートナーになる」と定め、ホーム内に大きく掲示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	グループホームの理念について、「尊敬の心を忘れず、ていねいな言葉づかい」「思いやり、笑顔を忘れず」「家庭的な雰囲気づくり」「優しい理解とよりそう心を高める」「大切な1日を幸せに」「節度をわきまえてみんながハッピーな雰囲気を」「思いやり」等々、職員それぞれが理念の遂行に向けての心構えを書いている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい ホームは孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町中から離れた地域のため、花見、演芸会、夏祭り、文化祭、クリスマス会等の特養の行事の際に送迎車を出し、地域住民が参加し、グループホームの利用者もその際に交流している。書道、音楽、生け花等は地域のボランティアが来てくれる。文化パルクのサークルやコンサートに参加している。近くの幼稚園の生活発表会、祖父母参観、運動会に参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	受審にあたり、職員会議で評価の意義を話しあい、自己評価票を配布し、意見を聞いている。職員は難しいとしながらも、「地域にねぎした居住空間とは何か」について、認識を深めている。昨年の評価受審により、グループホーム独自の理念の策定、看取り指針の策定と実施、意見箱の配置等が改善されている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、民生児童委員、老人クラブ会長、市高齢介護課職員、地域包括支援センター職員等がメンバーとなり、隔月に開催され、記録が残されている。毎回全家族に案内し、数家族が参加している。災害対策やインフルエンザ対策、苑内の新築工事の件等、率直な意見交換が行われている。地域の行事や紅葉のきれいなスポット、ボランティア情報など、提案があり、取り入れている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 ホームは、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは情報交換し、連携している。市にはグループホーム連絡会がなく、また市の主催の認知症サポーター研修等も実施されていない。法人としては地域住民にたいして介護相談やサービス利用の相談に応じている。	○	グループホームの有している専門性を地域貢献するために、市との連携により、認知症サポーター研修、民生委員への講演会、地域住民への介護相談等々の取組を実施することが望まれる。
<b>4.理念を实践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 ホームでの利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会は多く、毎日来る人から少ない人でも隔月に来訪されるので、その際に情報交換している。法人全体の広報誌『こもごも』を毎月200部以上発行しており、家族に送付している。その中の1ページがグループホームの情報である。利用者の写真はアルバムに収録し、希望があれば家族に差し上げている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族は隔月に開催される運営推進会議において、災害対策や感染症対策などについてフランクに意見を出しており、対応している。誕生会には家族を招待しており、一族10人くらい来訪される家族もあり、家族も演しものを披露されることもある。他の利用者の家族も誕生会に参加し、カラオケを披露したり、家族同士の交流が進んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今年度は退職者はなく、法人内の異動のみである。法人としては異動を通じて人材育成を目指しており、一定の異動は避けられない。利用者は職員の動きに敏感であり、ダメージを防ぐためには、異動する職員との関係により、知らせずに異動する人や「デイサービスにいるよ」と告げる人もいる。働きやすい職場にするために懇親会などで人間関係をスムーズにするようにしている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修計画を立て、接遇、認知症、ターミナルケア、身体拘束、人権、プライバシー、感染症、介護技術、褥瘡等のテーマで実施され、グループホームから1~2人が受講し、伝達研修している。外部研修については情報を提供し、職員に受講を勧めている。資格取得の職員には勉強会は問題集や実習などで支援している。職員は自己評価をし、上司との話し合いにより、目標設定をしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は認知症介護実践者研修、リーダー研修などに参加することにより、他のグループホームを見学したり、実習しているが、職員は他のグループホームを見学していない。	○	職員が他のグループホームを見学したり、そこで時間を過ごすしたり、他のグループホームの職員との交流をしたりすることは、自分の業務の振り返りになり、大きな研修効果をもつので、他のグループホームとの交換研修などを実施することが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>自で</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用の前には利用者や家族に見学に来てもらい、生活相談員と管理者が利用者の居宅を訪問し、情報収集している。入居という事態を理解できない利用者には「いろいろ教えてください」とお願いし、仕事に来ていると思っており、半月ほどは夕食後他の利用者が部屋に引き上げてから、入浴支援をしていた。いまま時には夕食後に入りたいとの希望がでる。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者とともに生活するなかで、相手を思いやって1歩先に行動すること、来訪者をていねいに見送ること、ていねいな言葉遣い等、さまざまなことを学んでいる。職員が他の利用者への介助の際に、言葉遣いや態度について、よく観察していて、教えてもらえる。		
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用にあたって生活相談員と管理者が居宅を訪問し、情報を収集している。かなり詳しい生活歴、医療情報、介護サービス利用情報、ADL、認知症の周辺症状等々を記録に残している。東京センター方式の一部シートを利用しており、好きなことや趣味嗜好等も記録されている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居日に暫定の介護計画を立て、半月後くらいに観察結果を基に確定の介護計画を立てている。「やりがいのある毎日」、「アクティビティの充実」等、前向きな暮らしを目指した介護計画である。アセスメントで収集した情報を介護計画に反映することが不十分であるため、具体性に欠ける介護計画である。	○	介護計画はアセスメントで収集した情報をフルに反映し、焦点化した具体的なものを立てることが望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケース記録はかなり詳細に書かれているが、介護計画の項目に沿ったものではなく、利用者の行動記録になっている。カンファレンス会議は口頭で行われており、記録がない。介護計画の評価は毎月実施しており、介護計画の項目にそって実施状況、目標の達成、本人の満足度、今後の方向性等が記録されている。計画の見直しに当たっては再アセスメントが実施されている。	○	ケース記録は介護計画の項目にしたがって、実施したかどうか、実施したときの利用者の表情や発言、実施できなかったときの考察等を記録に残し、介護計画の根拠とすることが望まれる。カンファレンス会議の内容を記録に残すことも必要である。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性と生かした柔軟な支援(ホーム及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○ホームの多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、ホームの多機能性を活かした柔軟な支援をしている	美容の利用には行きつけの美容院につれていったり、訪問美容を利用したりしている。文化パークの和太鼓のコンサートを見に行ったり、サークルに参加したりしている。併設特養からは行事参加、職員教育、避難訓練等でのバックアップがある。利用者はデイサービスに行ったり、行事のときなどに地域住民と交流できる。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医とホームの関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のかかりつけ医の受診には職員が同行しており、ホームでの情報を「外来受診連絡表」として文書化し、医師からの情報も把握している。特養の医師が往診してくれる。歯科医の往診も毎週ある。認知症専門医はおうばく病院の医師に相談している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「グループホームにおける看取りに関する指針」を策定しており、利用者や家族の希望があれば、ターミナルケアに応じている。指針には理念、体制、職員教育、マニュアル等が含まれている。現在ホームでの看取りを希望されている終末期の利用者がおり、ターミナルケアに際しての介護計画をたて、対応している。		
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	居室には中から鍵をかけることができ、掛ける人もいる。トイレも施錠できる。トイレ誘導などの声かけは十分注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝は6時半ころに起きる人や8時前まで寝ている人、夜は8時には部屋に引き上げる人や10時前までホールにいる人まで、毎日の生活は利用者のペースである。「お風呂に入りたい」や「出かけたたい」などの声にも、随時応じている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養課から献立と食材が届けられ、利用者と一緒に調理している。季節感のある和風献立である。毎週くらい「夕食づくり」として、利用者の希望により献立をたて、買い物から調理まで利用者と一緒に取り組んでいる。このなかですき焼きや鍋料理を楽しんでいる。季節ごとに外食にもでかけており、利用者には好評である。職員も一緒に食べながら会話が弾んでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	浴室は広すぎず、狭すぎず、ゆったりと入れる空間になっている。利用者は週3回の入浴をしており、希望があれば毎日でも支援している。マンツーマンの介助である。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	庭掃除や洗濯物干し、調理、金魚の餌やり、花の水やり、畑仕事、日めくりをめくる等の役割を利用者は果たしている。ホーム内では坊主めくり、トランプ、魚つりゲーム、しりとり、塗り絵、旗揚げゲーム、ボール遊び、歌を楽しんでいる。演芸会、運動会、クリスマス交流会、どんど焼き、梅の収穫等、特養の行事にも参加している。		
25	61	○日常的な外出支援 ホームの中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	苑内には金魚や鯉のいる池や花の木があり、利用者は毎日何度も散歩している。買い物、地域の敬老会、幼稚園の行事参加など、苑外には車で出かけている。いりご狩り、花ショウブ見学、観蓮会に参加、コスモス見物、紅葉狩り、クリスマスイルミネーション見物、初詣等、季節のお出かけをしている。入院中の利用者をお見舞いに利用者をつれていくなど、個別外出にも取り組んでいる。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	苑の入り口、ホームの入り口、玄関ドア、その他2カ所の入り口等、すべて日中は施錠されていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消火器、感知器、通報機、スプリンクラー、備蓄、防火管理者を備えている。避難訓練は苑全体で年4回、ホームだけで年2回実施し、消防署の参加があり、夜間想定の実施も実施している。栄養課の主催で備蓄食品を使って、非常災害時に備えてまきを使って調理するという「たくたく会」を実地している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
5	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者ごとの食事摂取量の記録、注意が必要な利用者の水分摂取量の記録が残されている。献立のカロリー値や栄養バランスの記録がある。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	門扉に木製の表札をかけ、ドアまでの芝生の庭には桜の木、パンジーを植えたプランター、ベンチを並べている。玄関土間からスタンドグラスのドアを開けると食堂、居間、和室、キッチン等のあるホールになる。和室には掘りごたつがあり、座布団がおかれ、生花が飾っている。観葉植物の鉢、ぬいぐるみ、本棚に本、一輪挿しにチューリップの花、壁に桜の花の大きなちぎり絵、掲示板に献立の絵と利用者の当番表、広いが落ち着ける空間である。外には畑があり、ジャガイモ、人参等を植えている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の扉に木製の小さな表札をかけ、ベッド、洗面台、押入れが備え付けられている。椅子、タンス、整理棚、衣装かけ等が持ち込まれている。飾り棚に旅の思い出やマスコット、人形等をびっしり飾っている人、大小さまざまな花や木の鉢を持ち込み、水やりを楽しんでいる人、仏像や女性像の彫刻を置いている人、亡夫との海外旅行の写真飾っている人、ビーズでつくったピエロ人形をかけている人等々、利用者ごとに個性的な部屋になっている。		